

西洋道中膝栗毛

六編

下

10

15

20

25

30

元あつたてあつちのやうな草場よむらにされ
 るお八さんおやア福入の工ごめとらうへんおくめ
 怪アニあんごんげんよおまはまらあなるの我々
 年サアとらうくおもて中からつし出りやア十方
 もねくたぬきをまやぢだアの羊わりごアのことあ
 んちうごまのうつたエうらア百姓おはらうら
 ねくけんどおのこや草やりおやアごさんねくぞ
 在新へサあぬんごりえあさうら祝人の代まおや

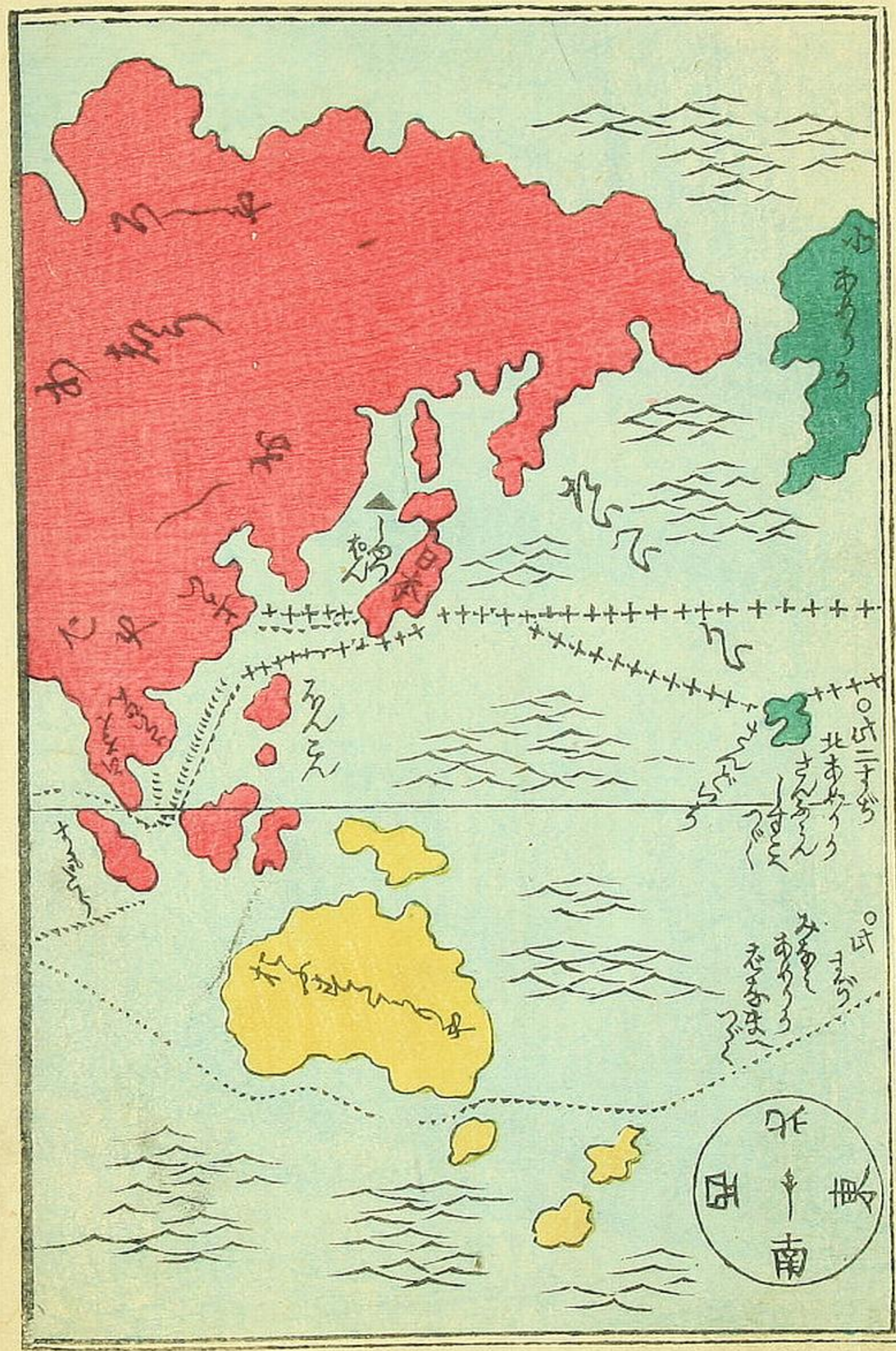
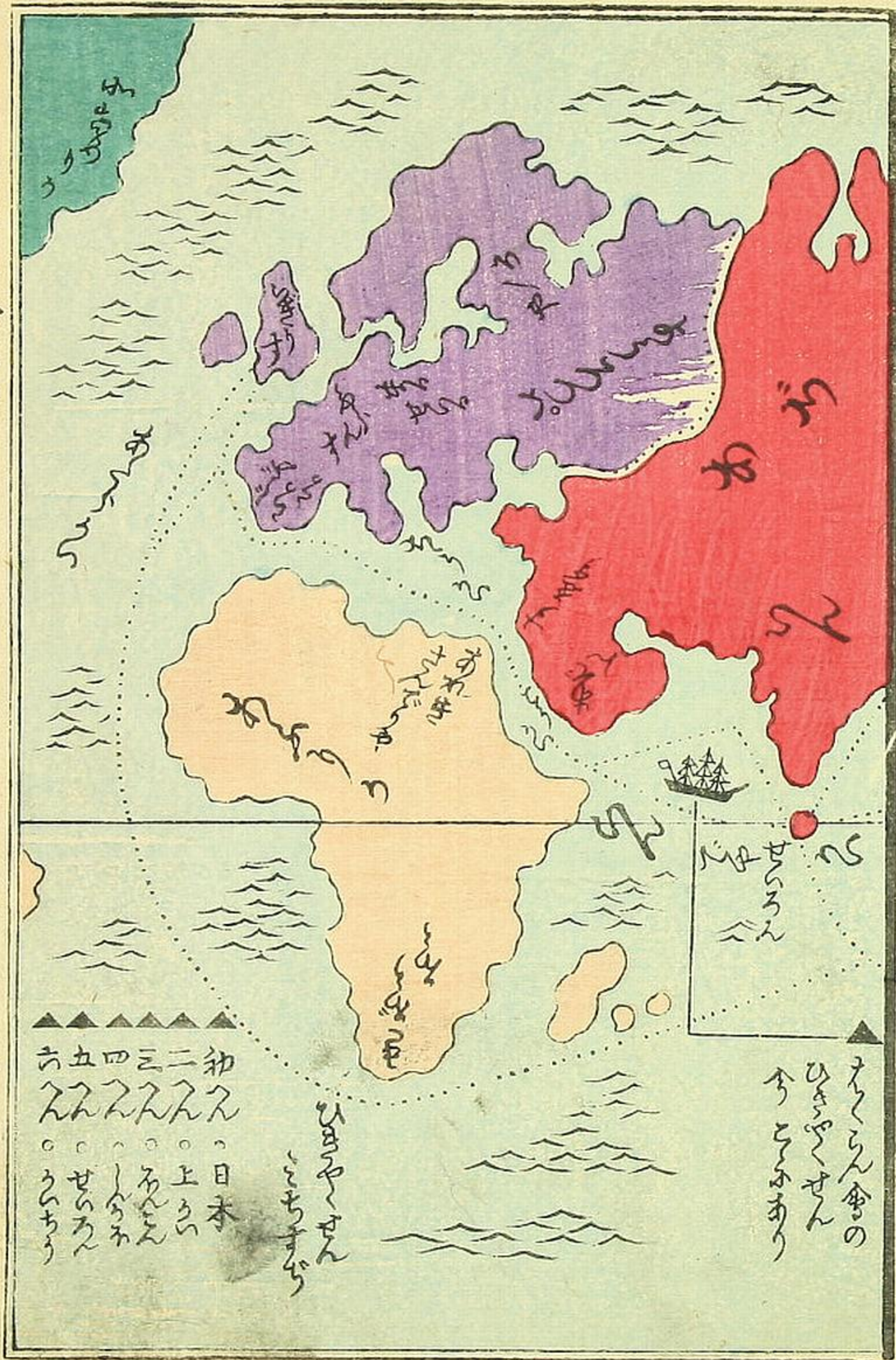
ア二十六ヶ村の惣代をさアつてあつたあがら
 だア屋サアぶんぬくねく先祖をたぐぬてうせ入
 法性ものたあおの園白大政お神宮とまおや
 アあつてくぬくうら法性ものたあおの園をく
 だひせうお神宮さぬの出来縁く在は神將
 慶系の別平あそんさぬうらアく六十一代中針
 がりの惣和家村内の席がうらく小あおの屋
 小送り速比のウさなる高家帯刀地元のあめし

サアラひく家室代のあん室めやア平親と情
 糸の源足公が徳軍の中一ろとぐらとらぎと量
 子から分捕のじつ徳つおと源の右衛門さぬが
 鬼が徳から持海らあやつこの日本一のおあろうの
 鏡のこ形持してりぬめりく家の持よ紙紙を
 かしそサアつじくをく舊家てごごるぞかめ入
 等のやうな素町人たアとけがちごうでまのまの
 ちろつちらなへエン北十あんごごをまのまの法

平が孫つようふれの中一ろとぐらとらぬ徳を
 つまやアがくくろぬが六百姓をまのみの徳
 さらべあびく世界一のあ系子を素町人
 だとぬろあやアがくくろぬが六百姓をまのみの徳
 が棟船る進へ神田の八丁堀とぐあ系の水を
 産湯ふあびてギヤツとろぬれるとあんを日
 からうさ紙を扉じんのまぐる海とぐあをたち
 あをまごごをヨららけはは入とのまあらひたじあ

江戸の若に先達が昔ありしで田舎に終の
 孝行から八景見一の十孝行の関年やうく
 ぞらねあけて月夜からまが帰るく月があがりやア
 どんびが花とらふ千文字の文句の右派松平ふ
 あまらし活花の朝長連とたみやの一葉
 と見せふんるの茶前の秘傳をうける年を
 若者の目のあが定海名無知とまらやアふ
 伏井戸の唐瀬のた場と今半若とらりき

るの強いさうりう風雅のそらんヨ本終あら
 茶前場の由緒やかわを町の文雅が押本の
 精丸と紫のシ又天照ぶりの程の徳をらん
 ぐるま借金をとりや貸店のふをやりらげらる
 むたびくくごらあ智恵を伯父あふあふる
 あらびあやア銚子を湯水よつらうくあへぬの
 のく男とららまごめんがくまご新橋系と
 昔あらうくあいらんの鞘あまらだ柳橋あやア



藝者のひつちり用お川でも新者ども根は板造
 小塚千住五國のあらび茶屋から酒場の契
 山矢場ふ茶え世の彩遠年増あまゝひけ
 ばとあゝひらまゝゝそらからづつがか移入
 りど養老さゝ〜若殿のれと女除の守護れ
 り是から出るサ色男ゆの何があるかあひひ
 らまゝ〜父のしほのさう〜麗な帆をひけ
 てあゝお入舞團と若者ひまらがるぬらりの

中るを老ぶれよあふけらひんけらぬをくら
 ッ〜あたまのり小法師だるまふああしがあ
 めのりだれごとあまづも移入の工端ヲイ
 お八何ようひらりせまゝんさゝあゝのびヨ結七
 ああぢのせつ〜よ何処〜税をききまゝ北〜エ
 ヲヤあのおぢぢららりのるあゝ遊やアガツたの
 道あふサああ〜がさあ〜あゝの云と射る被奴り
 ヲト〜と〜と退教ヨ北〜そんならとらとらとらわく

驚くはれづらふあらうあめをげあたまふ
 若やべりまひるまアがうもらだうらあ申お
 ありく若やべったのどあつたら濡イをらを
 穢らしたぜ 結ア〜〜もやくあらせやうとあ
 ったけれとてあ人の若やぶる〜ら沙たの蟹
 を〜〜ゆふふから泡をふ〜〜目をふ〜ら
 だりあ〜の〜のまるやうまが梅拵があ〜びを
 まるやうで妙ああん〜だうら〜物あ〜ら

だまッて若やぶらじ〜をひたの〜 北〜あんの西
 へ〜も福入〜 咽〜乾イてたま〜らぬ〜通きん
 を〜らだ〜あ〜人の傍のフラスコをと〜て〜ら
 だの 通フットお安イ〜用だ〜あ〜と〜して〜から
 とき〜 北〜チヨツらぬ〜は〜い又南系よ〜あやま〜
 〜〜ひよ〜の〜エ〜ト 志〜ら〜く〜は〜い
 吸売の太政をふせ〜ぐおの〜ま
 たち切られたる〜業〜銭〜ひ

跡以那のこれを見つゝより

年共の冷あぐら道よらみあぐ

りまのされと汗よある際

通^ツ一^ツ下^ツ戦^ツ率^ツ片^ツ対^ツイ^ツたら^ツて^ツふ^ツ若^ツづ^ツふ^ツあり

や^ツれた^ツる^ツの^ツ大^ツ洋^ツを^ツを^ツら^ツら^ツだ^ツら^ツら^ツチ^ツト^ツ著^ツ述^ツ

あ^ツな^ツも^ツか^ツら^ツら^ツか^ツ跡^ツヲ^ツイ^ツ通^ツさん^ツあ^ツり^ツて^ツは^ツな^ツあ^ツん

だ^ツら^ツと^ツも^ツい^ツて^ツあ^ツら^ツ作^ツぞ^ツも^ツま^ツる^ツの^ツ通^ツツ^ツ二

サ^ツ十^ツ日^ツの^ツ船^ツ海^ツを^ツ余^ツりの^ツは^ツ物^ツぐ^ツふ^ツた^ツく^ツあ^ツね

ひとり日^ツら^ツし^ツの^ツ祝^ツふ^ツむ^ツら^ツひ^ツサ^ツら^ツよ^ツあ^ツり^ツよ^ツー

あ^ツら^ツら^ツを^ツ日^ツ記^ツの^ツそ^ツふ^ツあ^ツら^ツつ^ツくれ^ツが^ツと^ツら^ツぐ^ツか

め^ツぐ^ツが^ツ邪^ツを^ツま^ツる^ツの^ツあ^ツや^ツあ^ツら^ツこ^ツを^ツも^ツの

ら^ツら^ツし^ツた^ツれ^ツだ^ツ北^ツあ^ツん^ツご^ツら^ツあ^ツじ^ツみ^ツら^ツら^ツを^ツま^ツて

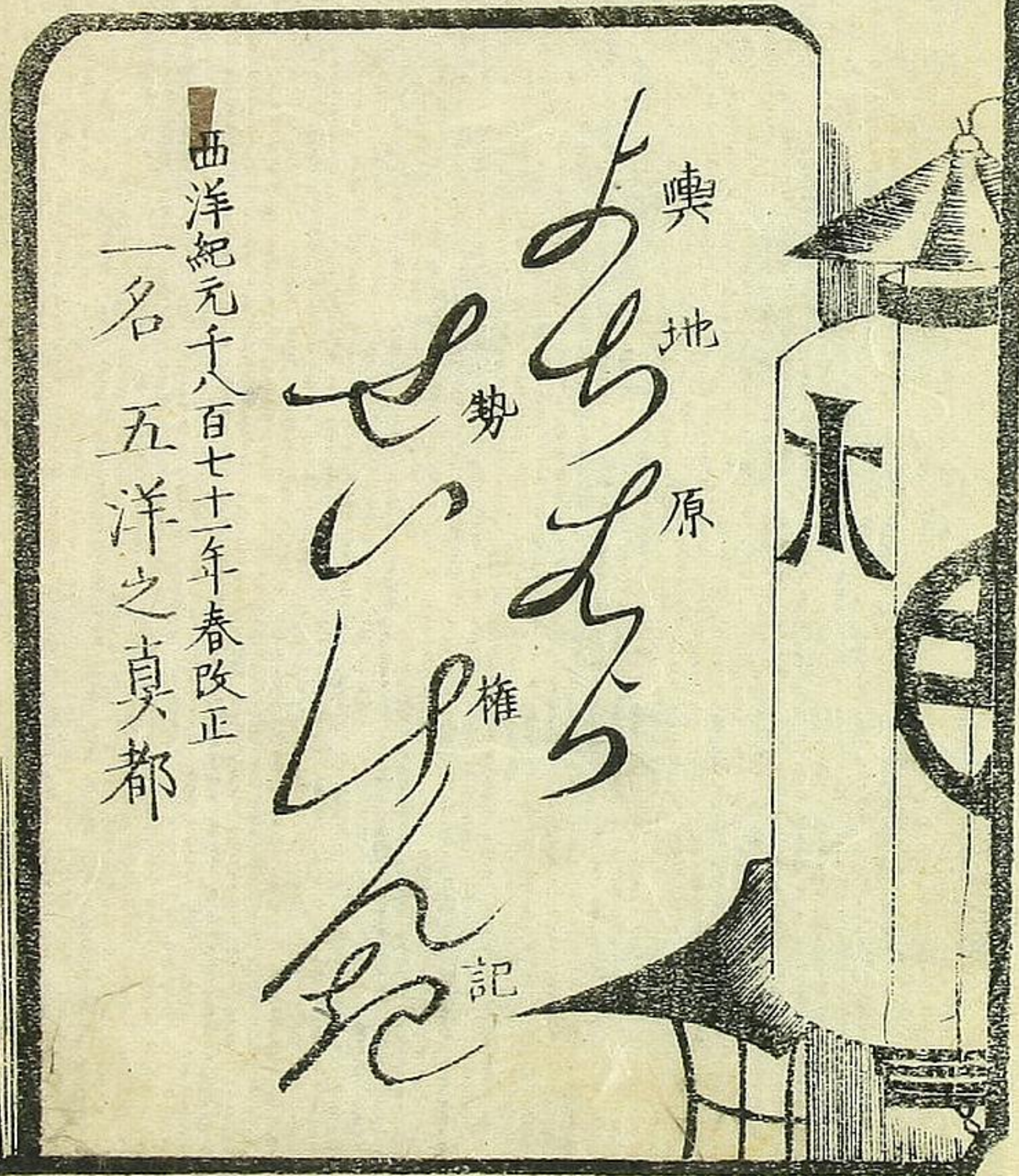
あ^ツら^ツら^ツ子^ツ性^ツと^ツつ^ツあ^ツ粗^ツひ^ツあ^ツら^ツ田^ツツ^ツ著^ツ性^ツ性^ツの^ツ作^ツ

習^ツら^ツあ^ツふ^ツサ^ツ日^ツら^ツし^ツの^ツ祝^ツご^ツと^ツら^ツら^ツら^ツ若^ツ田^ツ道^ツ

澄^ツ山^ツ松^ツ茶^ツ紙^ツと^ツら^ツ外^ツ駈^ツだ^ツら^ツら^ツ通^ツツ^ツト^ツ齒^ツ時^ツ

の^ツ戲^ツ作^ツ若^ツ茶^ツの^ツ鐘^ツ小^ツ僧^ツふ^ツ安^ツツ^ツあ^ツの^ツ著^ツ述^ツ小^ツ有^ツぞ

SALIKEN



西洋紀元千八百七十年春改正
一名 五洋之真都

け二三日ホツク一草稿をつけくあらる僕が趣
 向をけんじぬト わらわらのとりのつらむり下たかきを
 へア よちえら 勢権記 き。ちちう 一 の 名 の 五洋之真都 つ 記 い
 つん あん せん あふ 向 う 才 ち 離 ら 文 を ありて
 圓への工風が妙なり

○作者曰これより来と葉の通治所が著
 述の草稿にして跡は所如八等彼がたし
 を多小探て添めるありむたと知るべし

通(ト)うたエ中(チ)うととさ(ト)う(ト)うとらん(ト)ありのサ
チ(ト)流(ル)き(ト)これ(を)ら(ト)ゆる(ト)た(ト)古(ト)人(ト)之(ト)馬(を)
溜(ム)入(レ)の(ト)敷(向)だ(ら)う(ト) 北(ハ)さん(を)を(あ)んで(さ)
や(ア)大(席)ニ(ツ)同(ダ)十(ん)二(ニ)同(ダ)日(蘭)本(戸)
か(ら)算(算)換(換)案(案)で(一)ト(幕)の(ど)の(ト)か(出)る(せ)く
エ(モ)シ(た)ら(る)今(時)の(と)を(か)り(サ)通(ト)う(せ)く(人)合(符)
だ(め)を(と)い(ふ)を(あ)る(を)と(と)か(ん)を(と)云(や)河(岸)を(も)
附(ケ)の(妙)案(あり)サ(通)か(つ)を(ふ)つ(と)の(妙)案(あり)

通(ト)うた(ト)ん
あ(ト)身(は)ひ(と)り(き)つ(と)と(と)も(と)り(と)小(卵)か(ら)通(ト)う(と)ん
を(籠)案(案)に(ト)標(目)が(や)ぶ(卵)だ
虚(誕) 八百 河(童)平(凡)胡(瓜)圖(解) 名 絲(瓜)の(皮)
北(ハ)さん(を)を(あ)んで(さ) 野(菜)家(の)店(が)ら(し)
を(も)る(ゆ)り(み)卵(頭)だ(せ)通(ト)う(と)ら(が)大(敷)向(サ)然(と)
て(造)化(の)工(を)見(破)く(と)地(の)産(程)を(案)する

西洋史記

我々サ北「だうりせ南風が塵芥子だらう通

コレサく「愚峰さふよとの草稿を繕よこさぐえ

あせくコリヤアおのふん寔ちだらう 孫「ヲヤ本

ゆり若わかかけてあるのうそト二三枚の書きのやまをよみかて和文の初はつをよむことぞん

雑談雑談 安愚樂鍋 一名奴論建

第一章 書生の醉話

○年とし給たまハ二十にじゅう一いち二に位ばいの書生しよせいは個ひとり牛うし肉にく店やの西し面めん小せうえろぬのまうあぐらをかき持も系けいのビイルびいるの瘡かさよかむけ

フランスコの徳利とくりをかゝらんとくじ地ぢまりの水みづッ

おのさけをさうのあさくしき牛うしあぐのわりのお望のぞの

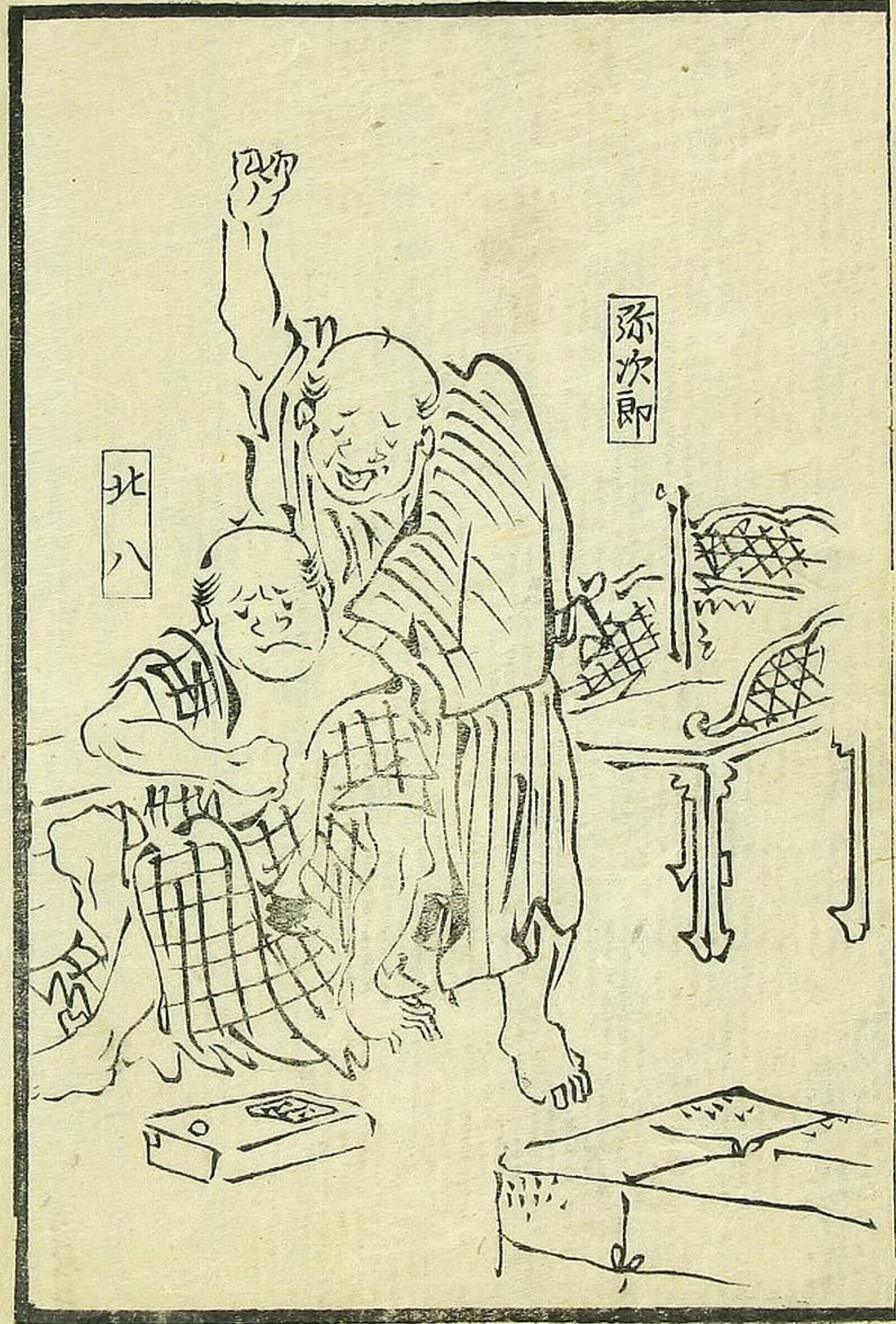
から血ちが二ふた枚まいむり出でく大おほ濟ぜいの湯ゆのうまのうま肉にくの

喰くつじつみか切きりの葱ねぎがたれ味あじ増ぞうと合あ儀ぎしてあさく

小せう沸ふるみらん天てんの如ごとくをり業わざ難がたをとりよせさく

湯ゆをほじくゆを煮にぐあることあり○ひしりいげんのあり

オウハハのありありのたまうの神かみ付づとくられがはのことニウにうト牛うしの
ある小せう神かみのあまの身み房ぼうすぢのよまをさうまをうけをひのうりよまをしの
細この白しろの二ふた重かさまらうのまじをまじうのうまをねとあさく一ひとかむせびたひの
カかのうらとまをうりたるをまらうもめんをさうまをねとあさく一ひとかむせびたひの
とまをすまをねとあさく一ひとかむせびたひのうまをねとあさく一ひとかむせびたひの
あさくまをねとあさく一ひとかむせびたひのうまをねとあさく一ひとかむせびたひの



弥次郎側のでたらめよ

殺ひらり番こそ船のぬきと喰

咽めとせきさうるまごめくらし

船うち真下てきまめくわごよ船ハま由地

めがけ西向くと走去けり

西洋道中膝栗毛六編下

發 行 書 肆

心齋橋通南久室寺町	伊丹屋善兵衛
川 北久室寺町	河内屋源七
川 北久太郎町	河内屋喜兵衛
名古屋本町三丁目	菱屋藤兵衛
八丁目	菱屋平兵衛
日本橋通二丁目	須原屋茂兵衛
二丁目	山城屋佐兵衛
川 芝神明前	小林新兵衛
川 横山町三丁目	岡田屋嘉七
浅草茅町二丁目	和泉屋市兵衛
本石町二丁目	和泉屋金右衛門
	須原屋伊八
	梶原屋喜兵衛

